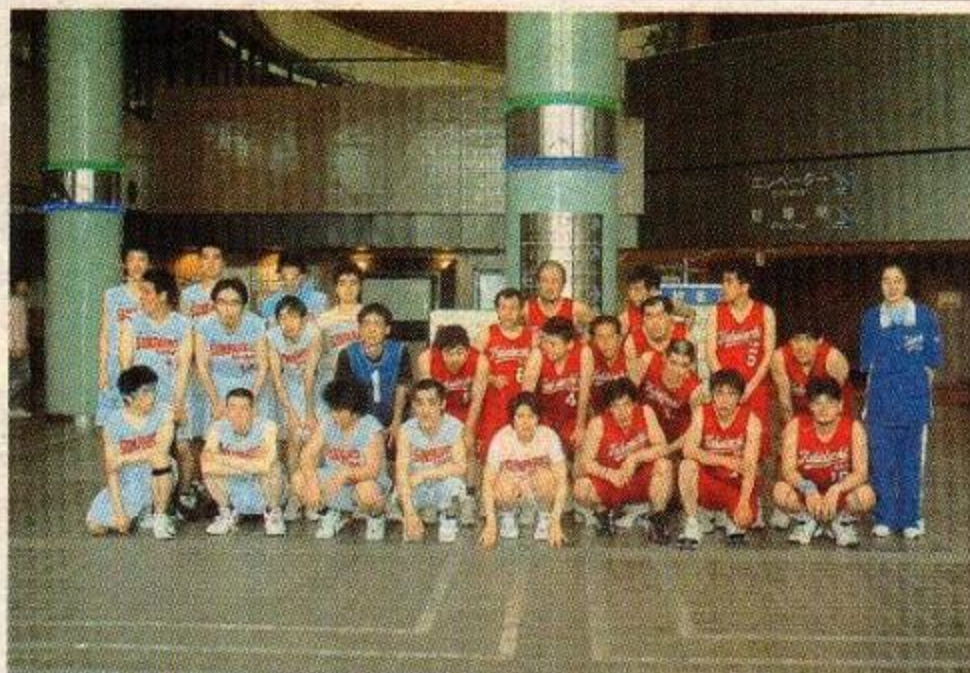


平成19年度ママさん
バスケットボール
交歓大会
エキシビジョンゲーム



平成19年度千葉市バスケットボール協会のママさんバスケットボール交歓大会が先週末、千葉ポートアリーナで開催

知的障害者チームの熱戦に声援沸く

勝者サン・パークス夢の実現を目指す

熱戦を展開したサン・パークスとたびだちBBC (赤)

大会には県内各地から20チームが参加し、4ブロックに分かれてブロック別の優勝を目指した。ママさん選手たちは子どもたちから大声援をおくられて大ハッスル。例年にも増して盛り上がった大会となった。

また、エキシビジョンゲームとしてID(知的障害者)バスケットボールの「サン・パークス」(千葉市)対「たびだちBBC」(袖ヶ浦市)の交歓ゲームが行われた。

サン・パークス 83
たびだちBBC 20
スコア: 28 23 12 22
4 2 1 2 2
C

両チームともにマンツーマンディフェンスでスタート。サン・パークスは大井のストロングなゴール下で先制のシュート。スピード豊かなパス

ワーク、速攻でゲームの主導権を握る。たびだちBBCはミスが続ぎ、残り2分、加門がようやくミドルシュートを決めたが、1Qはサン・パークスが大きくリード。

2QはたびだちBBCが反撃。石井(新)、加門、石井(孝)のドライブイン、インサイドでのクリーンシュートが決まり出す。しかし、サン

パークスも中島、小椋山のゴール下、ドライブイン、さらにミドルシュートと多彩な攻撃を展開してゲームを盛り上げる。2Qは互角の展開だったが、たびだちBBC石井(孝)の健闘が目立った。

後半3Qは両チーム、マンツーマンディフェンスでスタート。サン・パークスは森見のフリースローや橋本、加藤のインサイド攻撃など鋭いプ

レイが光る。たびだちBBCはときおり反撃を見せるが、サン・パークスのプレッシャーの強いディフェンスの前に思うように得点できず苦しいゲーム運び。残り3分、サン

パークスは猛攻。橋本、森見、末木、土井と速攻が冴えた。リバウンドも支配し、ゴール下を確実に決める。4Qは両チームともにゾー

ンディフェンスに変える。たびだちBBCの福沢のコーナーミドルシュートが決まる。サン・パークスは中島、野島のドライブインで強引にゴールにねじ込む。残り4分、サン・パークスはメンバーを変

え、余裕のゲーム展開。ディフェンスもハーフコートのマンツーマンに変え、粘り強いディフェンス。石井(新)、加藤、新穂、橋本の足を生か

した速攻やミドルシュートが決まる。たびだちBBCも善戦するが、チームバランス、ベンチワークに上回るサン・パークスに脱帽した。

◇サン・パークス

千葉市の特別支援学級と養護学校高等部の卒業生で構成されたチーム。10年前に同市の中学教員が特別支援学級卒業生のために「サン・パークス」という集りをつくり、バスケットボールを中心に活動を始めた。

同市の中学校特別支援学級では毎年6月、千葉ポートアリーナで開催される「元氣交流会」でバスケットボール大会を行い、バスケットに親しむ機会があり、競技力の高い選手

で構成されている。東京や神奈川のIDバスケット大会にも出場。東京友愛バスケットボール大会2位。神奈川県IDバスケットボール大会優勝など好成績をあげている。現在は2010年千葉県開催の国体後に行われる全国障害者スポーツ大会に千葉市代表としてバスケットボール競技出場を目指している。なお同市のIDバスケットボールチームにはサン・パークスのほか「ワークホーム銀河舎」がある。

◇たびだちBBC

袖ヶ浦市の長浦ワークホームを卒業後、就職した地域の中でつくられたチーム。結成4年目を迎える。選手一人一人が仕事をしながらパワフルチームを目指し、週1回練習を続けて頑張っている。

(千葉市バスケットボール協会副会長・大森義和)